

## 第3回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和4年4月26日（火）

18時～19時30分

会場：須坂市シルキーホール

### <次第>

#### 1 開 会

#### 2 挨拶

#### 3 自己紹介

#### 4 会議事項

- (1) 「第2回須坂新校再編実施計画懇話会」まとめ
- (2) 今後の懇話会の進め方について
- (3) 各校生徒による学校・学びの紹介
- (4) 須坂新校の学びのイメージに係る意見交換

#### 5 その他

### <次回の予定>

#### (1) 第4回須坂新校再編実施計画懇話会

(日時) 令和4年6月27日（月） 18時～19時30分

(会場) 須坂市生涯学習センター

(内容) ・テーマ別意見交換  
・期待する新校の学びのイメージへの意見交換

#### (2) 第2回校地検討会議

(日時) 令和4年6月27日（月） 16時30分～17時30分

(会場) 須坂市生涯学習センター

#### 6 閉 会

## 須坂新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○は新構成員

	区分	氏名	所属等
1	自治体	三木 正夫	須坂市 市長
2		新井 隆司	小布施町 副町長
3		藤沢 敏和	高山村 副村長
4		小林 雅彦	須坂市教育委員会 教育長 (座長)
5	産業界	春原 博	須坂商工会議所 専務理事
6		神戸 佳代	小布施町商工会 女性部長
7		久保 正直	アスザック株式会社 代表取締役社長
8	同窓会	浅井 洋子	須坂東高等学校同窓会 会長
9		霜田 剛	須坂創成高等学校同窓会 副会長
10	学識経験者	半田 志郎	国立大学法人信州大学工学部 特任教授
11	PTA	西澤 浩文	須坂東高等学校PTA 会長
12		○ 鈴木 勝	須坂創成高等学校PTA 会長
13		島田 千春	上高井郡市PTA連合会 副会長
14	小中学校関係者	坪井 扶司夫	上高井校長会 代表 (墨坂中)
15		新井 孝之	上高井校長会 代表 (日野小)
16	地域	○ 中坪 成海	長野地域振興局長
17		二ノ宮 邦彦	元 県立高等学校長
18		大宮 透	元 慶応SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター主任研究員
19	再編対象校	畔上 大空雅	須坂東高等学校生徒会 会長
20		内田 陽菜	須坂東高等学校生徒会 副会長
21		丹下 駿	須坂創成高等学校生徒会 会長
22		望月 梨々音	須坂創成高等学校生徒会 副会長
23		○ 宮尾 悟良	須坂東高等学校長
24		山岸 暢	須坂東高等学校 教諭
25		○ 羽山 功	須坂創成高等学校長
26		小林 英司	須坂創成高等学校 教諭

### 事務局

須坂東高等学校		須坂創成高等学校		高校再編推進室	
○ 宮下 由夫	教頭・副事務局長	峯村 勲	教頭・事務局長	○ 山岸 明	主幹指導主事
嶋田 順一		小林 英司		有坂 清明	主任指導主事 (須坂新校担当)
酒井 健次		柳澤 亘			
山岸 暢		山口 新一			
高坂 亨		○ 辻 隆秀			

## 第2回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和4年2月28日(月) 18時00分～19時30分		
場所	Zoomによるオンライン会議		
出席 (敬称略)	三木 正夫, 新井 隆司, 藤沢 敏和, 小林 雅彦, 春原 博, 神戸 佳代, 久保 正直, 浅井 洋子, 霜田 剛, 西澤 浩文, 富沢 洋一, 島田 千春, 鳥谷越 浩子, 山岸 暢, 西澤 国之, 小林 英司, 坪井 扶司夫, 新井 孝之, 半田 志郎, 吉沢 正, 二ノ宮 邦彦, 大宮 透, 畔上 大空雅, 内田 陽菜, 丹下 駿, 望月 梨々音 (以上26名)		
欠席 (敬称略)	なし	傍聴者	4名
事務局	須坂東高校	野口 教頭(副事務局長), 島田 教諭, 酒井 教諭, 山岸 教諭, 高坂 教諭	
	須坂創成高校	峯村 教頭(事務局長), 小林 教諭, 柳澤 教諭, 山口 教諭, 荒井 教諭	
	県教育委員会	駒瀬 高校再編推進室長, 上原 主幹指導主事, 高野 担当係長, 有坂 教諭	
当日資料	次第, 第1回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案), 須坂新校再編実施計画懇話会 校地検討会議について(案), パワーポイント資料, 研修会資料(総合技術、新たな普通科)		

### 会議事項

- (1) 第1回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ
- (2) 校地検討会議について
- (3) 研修会
  - ①「総合技術高校」について
  - ②「新たな普通科」について
- (3) 質疑応答及び意見交換

### 構成員から出された主な質問・意見(要旨) (→校長回答)

- ・教育課程の改革は皆でやろうという気持ちが大事であるが、どのように行ったのか。また、生徒は須坂創成高校入学時から意識が高かったのか、高校生活を経て熱意を持つようになったのか。  
→今のものが総合技術高校の教育課程の完成形ではない。もっと良くしたいという発想が常になれば新しいことはできない。入試の段階で将来の展望を持っている生徒もいるし、入学後に意識が高まる生徒もいる。入学後に意識が変化してこの分野でこれを学びたいという考えが出るとおもしろい。
- ・プログラミングの専門学科を設けるか、普通科の中でプログラミングを扱った看板授業を持って、学業に限らず、将来に生かせる活動が必要。
- ・総合技術高校はさまざまな分野でお互いの分野を学び合うことで、幅広い知見を学ぶのは大学の教養学部に近いと感じた。高校の段階から自分に合った専門性を学べる。高校は入学時より学科が決められているが、新校では1年次は教養学部のようにさまざまな分野を学び、2年次より専門的な学科を学ぶという考え方はできるのか。

### その他

#### 【次回】

日時：令和4年4月中 を予定

会場：須坂市生涯学習センター 3階 ホール を予定

内容：両校生徒による学校紹介、期待する新校のイメージに関する意見交換

## 第2回須坂新校再編実施計画懇話会を受けての構成員アンケートのまとめと分類

### 1 県教委が検討、対応すべきもの

- 中学生が進路選択するにあたり、新たな普通科が高校卒業後のどのような道につながるかの道しるべがほしいかかもしれないと思う。
- 同じ旧2通の学校として選択する側の生徒が、須坂新校と中野新校の2校の違いをより明確に理解していくような、わかりやすい説明が大切。保護者以前世代は、いずれも元職業科の高校と普通科の高校が一緒になるという認識があると思われるので（須坂園芸・須坂商業+普通科の須坂東、中野実業+普通科の中野西）、どちらも同じような高校として捉えられてしまう可能性は大きい。

### 2 今後懇話会で検討する「学びのイメージ」に関するもの

- 新校においてその「新たな普通科」をどういうテーマで設置するのか、多分「地域社会」に寄ると想像するが、その他の特色としてはどういった案があるのかを、追々提示して行って欲しい。
- ITに関する学科か、情報システムを学ぶ学科を1クラスつukれないか。
- 須坂商業高校・園芸高校のルーツDNAを次世代へ引き継ぎ、残していくことで須坂創成高校が生まれた。須坂東高校のルーツDNAは須坂高等女学校、文化服装学院の小池千恵先生の母校で、ファッションデザイン科や、現代社会に必要な福祉介護科等がふさわしい。
- Society5.0の時代の中、DX推進やデータサイエンスに係る人材の確保が急務。こうした人材育成にも力を入れてもよいのではないか。
- 中学生の段階で、自分の「興味」を明確にすることは難しく、高校生になってから、実際に授業や実習で自分にとって興味を持てる分野を見つける子どもたちは少なくない。そういう意味では、1年次に様々な分野の「さわり」を学ぶことができ、転科がしやすい学校運営になると、進路選択の幅が広くなり、生徒にとっても魅力的なのではないか。
- 交流授業を増やしたり、一定条件の下、途中で学科変更が可能な体制ができると面白い。学校に入ってみて思っていたことと違うということはよくあること。卒業してから学び直すという、生涯学習が必要であることを認識してもらう教育も必要と思うが、その時の熱も活かせれば、効果がある。
- 各学年で適性を判断して転科できるようにならないか。
- 普通科にプログラミングを看板授業として入れる。それをシステムハウスやメーカーなどのシステム部門でインターンシップを行う。

### 3 その他意見、質問など

- 新たな普通科については、隠岐島前高校のように、週の1日は探究に使えるなど、まとまった時間の中で自分の興味を深掘できる時間が持てるよう、カリキュラムを工夫することができる。とよい。「興味があることを思いっきりできる」という環境は一つの強み。それこそ進学校にはない優位性になる。
- イノベーション（地域課題の発見・解決を含む）は、特定の専門を学んだ人だけから生まれるものではなく、ちょっとした気付き、疑問等から派生し、周りの人々の意見や技術を総合した中で生まれてくる。その意味で、普通科の生徒を含め職業科それぞれの生徒が、交流授業や学校生活の中で異なった考え方の人々と交流することによって、イノベーションの機運が醸成されてくる。普通科と農業・工業など様々な技術科が同じ学校の中にあるのはとても意義のあること。
- ファッションデザイン科は文化服装学院との連携ができる。福祉介護科は看護学校との連携が取れる。
- 今までの職業科と校外との連携に加え、更に新たな普通科での校外との連携となると、学校職員が対応できるのだろうか、負担が心配。
- 所在市である須崎市とは連携していくとのことだが、小布施町や高山村など周辺町村との連携も検討もりたい。
- 地元の企業や自治体との連携が鍵になってくる。デュアルシステムなど、現在の須坂創成高校でも取り組まれている形を継承・発展していくことが重要。
- 学校内にとどまらず色々なバックグラウンドを持つ人々と連携、交流することは非常に有意義。
- せっかく農商工のすべての事業分野がある学校なのであれば、新たな普通科は「共創」をしっかりと学べる学科になるとよい。多様な分野を知り、つなぎ、新たな価値を生み出せる、人やアイデアをつなぎ、新たな価値を生み出せる人材が育つ場所になるとよい。
- 普通科の生徒にとってみると、専門科で行っている授業等は、キャリア教育の一部にもなっており、普通科で学ぶ意義を早くから認識する一助にもなるので、選択科目として他の専門科の単位が取れたりすると好ましい。
- 特徴的授業を共同で受ける。
- 部活動でのアピールが私学に重きが行きすぎていて、公立での活躍が望まれる。多様な生徒が集まる新校では、是非部活動にも多様な力が発揮できるようにしてほしい。
- 部活動や生徒会活動については、一般的な学校にあるスポーツ関係の部活だけでなく、専門性を活かして取り組める文化活動部（プログラミングや機械工学、起業、農業など）が充実することも、学校の魅力になる。
- 部活動や生徒会活動は学科に関係なくでき、いろいろな考え方を持つ生徒の交流が生まれるので、活発に行われることが望ましい。将来の共同作業の良い訓練にもなる。飯山高校の最近の活躍は、目覚ましい。良い高校改革は、部活動等を含め新しい学校の特色や良い伝統を作ると思う。

## 「須坂新校 再編実施計画懇話会」今後のスケジュール（案）

令和4年4月26日

高校再編推進室

年度	月・日	懇話会	内 容	校地検討会議
令和3年度（2021年度） ～ 令和5年度（2023年度）	12月13日	第1回会議	○「県教委より説明」	
	2月28日	第2回会議 (オンライン開催)	○目指す学校像（ビジョンの共有） ・総合技術、新たな普通科の研修	
		第3回会議	○目指す学校像（新校への思いと希望） ・各校生徒による発表	第1回会議
		第4回会議	○期待する新校のイメージへの意見交換	第2回会議
		第5回会議	○地域づくりと教育についての講演	第3回会議
		第6回会議	○新校の学びのイメージづくり	第4回会議
		第7回会議	○設置課程及び学科等	第5回会議
		第8回会議	○募集開始年度及び統合方法	
		第9回会議	○「須坂新校再編実施基本計画」について	
		第10回会議	○「須坂新校再編実施基本計画」について	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; background-color: #fff9c4; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> <b>教育委員会に「須坂新校再編実施計画」を付議</b> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; background-color: #fff9c4; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>6月議会で審議・議会同意</b> </div>				
<p>議会同意後は、新校開校まで3～4回程度開催予定</p> <p>必要に応じて、専門部会（学校運営会議、校名・校歌、地域協働など）を設置することができる</p> <p>須坂新校の具体的な学校像は、統合対象校の教職員による「須坂新校準備委員会」でも検討</p>				

須坂新校開校